The Japan Times [グローバル時代の就活に役立つ情報紙]

The University Times

May 2012 Vol. 20

http://jtimes.jp/utimes

produced by **IELTS** by **STEP** \times The Japan Times $_{\odot}$ The Japan times, Ltd. 201

CONTENTS

■ Visit a Global Company:グローバル企業訪問 東京エレクトロン株式会社

■ Journalist's Eye: 英字新聞記者の視点 「ステマ」/「スペリング・ビー

■ English for Careers: 就活英語を学ぼう 英文 E メールの書き方④ ■ Shu-katsu Counseling: 就活の不安を解消しよう 面接のポイント

大学の国際化をリードする慶應義塾大学

リーディングテストのコツ

英文記事を読んでみよう

8

Visit a Global Company: グローバル企業訪問

世界を席巻する 日本発の最先端テクノロジー

Vol. 10

東京エレクトロン株式会社

半導体製造装置、FPD製造装置、太陽電池製造装置と、わ れわれの生活を豊かにする社会的貢献度の高い事業を展開 する東京エレクトロン。同社では若手に多くチャンスが与 えられるなど、社員一人ひとりの情熱を大切にしている。

パソコン、携帯電話、家電製品、デジタル カメラ…。私たちの生活のあらゆる場面で利 用されているこれら製品には、半導体 (IC チッ プ)と呼ばれる電子部品が組み込まれている。 その半導体の技術革新を支えているのが、半

導体製造装置のリーディングカンパニー、東 京エレクトロンだ。

1963 年に半導体関連機器を扱う専門商 社として誕生した同社。しかし、技術革新の 早い半導体業界では、輸入した装置を販売

するだけではそのスピードに追いつくことがで きない。半導体の開発スピードの先を行く装 置を自社開発する必要がある。こうして半導 体製造装置の国内生産をスタートさせた東京 エレクトロンは、以来、製造装置メーカーと しての地位を確固たるものにしてきた。

「半導体製造装置の分野で蓄積した技術を応 用した FPD (フラットパネルディスプレイ) の 製造装置も手掛けており、世界トップクラス のシェアを獲得しています。近年では、環境 問題やエネルギー問題への関心が高まる中、 技術で環境問題に取り組むという信念のも と、太陽電池製造装置事業を新たなビジネ スの柱にするべく強化しています」

人事部スタッフィンググループの宮島剛さん は、同社の主要事業について詳しく説明して くれた。同社では、1990年代半ばより行っ てきた、サービス・セールス拠点の世界的イ ンフラづくりや、研究開発拠点の海外展開な どのグローバル戦略が実を結び、現在では 売上高の7割以上を海外が占めるグローバル 企業グループへと成長した。このような状況 もあり、日々の業務で英語を使う機会は増え ている。こうした舞台で必要となってくるのは、 グローバルな視点で仕事を捉えられる行動力 のある人材なのだという。

「海外留学生や外国人留学生の採用を積極 的に行っています。もちろん日本の大学に通



人事部スタッフィンググループ主任の宮島さん

う日本人でもグローバルマインドを持っている 人は大歓迎です。さまざまなバックグラウンド を持つ人を採用したいと考えているため、専 攻も国籍も問いません。新卒採用では書類 選考は行わず、実際に会って面接で評価しま す。現時点では高い語学力がなくても問題は ありません。外国語に臆せず積極的にコミュ ニケーションをとり、語学力を高めることと同 時に異なる文化や風習を受け入れられるバイ タリティと柔軟性あふれる人を望んでいます。 さまざまなバックグラウンドや個性を持った人 たちで半導体、FPD、太陽電池の技術革新 を起こすだけでなく、培った技術力で新規事 業を生みだしていきたいと考えています」

自主性、チャレンジ精神を求む

東京エレクトロンは 2012 年 11 月、創立 50年を迎える。「理想の会社を創りたい」と 設立した創業者のベンチャースピリットは、現 在も企業文化にしっかりと受け継がれている。 「そのカルチャーは、第一に、変化のスピード の激しい半導体業界の中で、それを好んで受 け入れ、新しいことにどんどん挑戦していくチャ レンジ精神。第二は、自ら考え失敗したとし ても、そこから学んで成果を生み出す力。第 三は、粘り強さ。自分の軸、芯を強く持った 上で、やり遂げることができる力。そして最後 は、いわゆる個性です。他人とは違う『オンリー ワン』を持ち、また会いたくなると相手に思っ てもらえる魅力ある人間。こういった思い、力 や魅力を持つ学生さんとたくさん出会いたい ですね」

同社では前述の通り、語学力は入社時の 必須要件ではない。その代わり、入社後には 継続的な学習の機会を提供するため、社員 や組織の能力向上を目的とする社内教育機関 「TEL UNIVERSITY」を設置している。

「主体性や自主性を尊重する当社の文化は、 教育制度にも現れています。その一つが『英



半導体製造装置(写真)や FPD 製造装置の世界市場で高いシェアを誇る

Visit a Global Company

グローバル企業訪問

語自主勉強会』。これは気の合う仲間同士で 勉強チームを作り、学習計画から目標管理ま で社員の自主性に委ねて、英語の上達を目指 す取り組みです。会社は教材費などのサポートこそ行いますが、基本的には自らが動いて 学習していくというスタイルです。これは業務 においても同様です」

同社では昨年、学生向けのキャリア支援 講座を開催した。講師を務めたという宮島さ んから、最後に就職活動中の学生に向けて、 仕事探しのポイントを語っていただいた。 「日本には非 1 次産業では 430 万以上の会社・法人があるといわれています。自分を生かせる会社はその中に必ずあるはずです。就職支援サイトに掲載されている会社はほんの一部なのです。日常生活で接することの多いB to C 企業や大企業に目がいきがちですが、自分がやりたいことは何か、何にやりがいを持てるか、自身の仕事に対する動機とその動機を実現する条件を整理して、就職に対す る軸・価値観をしっかり自己分析したうえで、会社探しを行うことが大切だと思います。また、グローバル人材がキーワードとなる昨今の就職活動では、外国人留学生、海外留学生などと同じ土俵で戦う時代です。異文化理解、語学力の点では留学生と比べ見劣りするかもしれません。自分の個性や強みをどれだけ学生時代に磨けるか、周囲に流されず自分を生かせる会社を見つけるかを大切にして就職活動に臨んで欲しいと思います」

東京エレクトロン

東京エレクトロン株式会社

半導体製造装置のリーディングサブライヤーとして幅広い製品分野の開発・製造・販売を行っている。半導体製造装置の分野で蓄積した技術を生かして、FPD (フラットパネルディスプレイ)製造装置や太陽電池製造装置も手がける。半導体製造装置および FPD 製造装置の多くは、世界市場で高いシェアを獲得。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの計 16 カ国、93 カ所のグローバル拠点網を通して、製品とサービスを提供している。

http://www.tel.co.jp

グローバル企業の先輩に聞く!

正確な文法を覚えるよりも 使うことで学んでいくのが一番

緒方 伸也 さん

東京エレクトロン株式会社 PVE 本部 PVE 営業部



2008 年入社。2009 年 2 月に締結したスイスのエリコン・ソーラー社との太陽電池製造装置の独占販売代理店契約に伴い、エリコン・ソーラー部に配属。台湾地区の営業を担当する

Q お仕事内容を教えてください。

A 台湾のお客さま向けに、太陽電池の一貫製造ラインを販売しています。具体的には、販売代理店契約を結んでいたスイスのエリコン・ソーラー社(2012年3月3日付で東京エレクトロンによる買収を発表)と台湾企業との間に入り、契約のサポートや調整を行っています。2009年に発足したばかりの比較的新しい部署ですが、当社の第3の柱である太陽電池製造装置の事業を任せてもらっており、非常にやりがいを感じています。

Q 1週間のスケジュールは?

A 月曜日に先週の報告と今週のタスクを各営業担当者とマネジメントに説明・共有し、それが終わるとすぐ支社の東京エレクトロン台湾に向かいます。現地では、新設や増産の提案、ヒアリングや商談を行い、週末にまた帰国します。台湾には専属の営業担当者が2名いるのですが、うち1名は日本語がまったくできないので、コミュニケーションはすべて英語で行っています。エリコン・ソーラー社とのやり取りも基本的には英語です。

Q 英語はかなり得意なのでしょうか?

A 高校生のとき、アメリカのオレゴン州に 1 年半ほど留学していました。しかし、今から 10 年も前のことで、帰国してからはほとんど 英語を使う機会もなく、かなり忘れていたのです。4年前に海外業務に就いたことで、再び英語を使う機会ができたので、高校生の頃以上に勉強しなければと、実務を通じて必死に習得に努めているところです。

Q 入社を希望された理由は?

A 工学部だったのですが、研究室で黙々と作業するよりも、外に出て人と出会ったり話したりすることが好きだったのです。そのような仕事を探しているうちに、東京エレクトロンでは技術的な営業担当者が数多く活躍していることを知り、現在に至っています。また、海外にいるたくさんのお客さまと仕事をする中で、いろいろな文化に触れて刺激を受けたいと考えていました。当社は海外シェアが高いので、それも入社を希望した理由の一つです。

Q 海外とのビジネスで大変なところは?

A 最初は、日本との商習慣の違いや海外特有のビジネスライクな面に戸惑いました。一般的に、日本よりも海外のお客さまの方が要求は厳しいです。それでもなかなか折り合いがつかず、思うようにいかないことが多いですね。しかし、エリコン・ソーラー社と台湾企業双方が納得のいくような調整ができて、お客さまから感謝の言葉をいただいたときはやっていて良かったと思いました。また、スイスの時間に合わせて電話会議を行う場合、向こうの始業時間は日本では夕方の4時になるので、自宅に帰って会議に参加することがあります。そういったグローバルならではの苦労があることを、海外との仕事を始めてから知りました。

Q 英語習得法を教えてください。

A 英語を勉強したというよりも、留学先で生きていくために、分からないなりに外国人に話しかけていました。そうすると、徐々に言っていることが耳に入ってきて、フレーズや単語、付き合い方や距離感を覚えることができました。今回、忘れていた英語を再び修得できたのも、英語の業務メールを何度も繰り返し読んでいたことで、留学時と同じ感覚で吸収できたからだと思います。英語をマスターするには海外に行くのが手っ取り早いとは思いますが、そもそも台湾やスイスで使う英語は、日本で教えるような正確な文法は必要ありません。構えずにどんどん使うことで覚えていくのが一番だと思います。



スイスのエリコン・ソーラー社にて、同社担当者と緒 方さん(右)

Q 東京エレクトロンの魅力とは何ですか?

A いろいろなことにチャレンジさせ、若いうちから仕事をどんどん任せて成長させようという社風でしょうか。社内ではよく「ONE TEL」という言葉を使いますが、グループの会社間で人事制度、教育制度、福利厚生制度などが統一されているので、その垣根を越えた異動も可能です。私も入社時点から、海外での仕事を希望していましたが、会社は社員一人ひとりを枠にはめることなく、われわれの声にしっかりと耳を傾けてくれます。

Q 学生へのアドバイスをお願いします。

A 私が就職活動をしているときも比較的厳しく、同級生でも大学院に進むか就職するかという選択があったのですが、個人的には学部卒で就職してよかったと思っています。というのも、私と院に進んだ友人とでは、社会人としては2年のキャリアの差あり、やはり社会での2年間というのは、すごく濃密で成長できる時間なのです。そういう意味では、一足早く社会の荒波にもまれて、自分のあるべき姿を模索するというのも非常に重要なことなのかなと考えます。景気の良し悪しはあるものの、就職活動はいつの時代も厳しいものです。どうか乗り越えていってください!

緒方さんの お仕事アイテム



「入社時からずっと愛用しているペンと 手帳です。 台湾へ行くときもスイスへ 行くときも、常に肌身離さず持ち歩い ています」